向高清水沢（仮称）

1983年5月28日
L

国道399号線より唐沢を下降して摺上川本流へ下る。唐沢は本流へ出る所に20mの階段状の滝をかけているが、この滝は最後の部分が下れず、左岸を捲いて本流に降りたつ。そこから50m程下ると向高清水沢（仮称）の出合である。

向高清水沢（仮称）は出だしからいきなり５m滝が連続している。こんな時はワラジをつける気分も最高である。F6まで次々と滝が現れ、一気に高度をかせぐ。水量が少ないために難易度は初級というところで、あっという間に核心部を終わる。

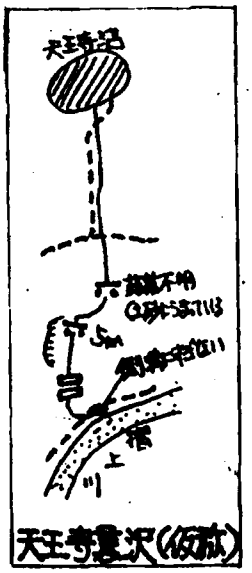
このあと沢は平凡となって源流に至る。最後に小滝を２つ直登すると、もう尾根は間近であった。

この沢は釣り人もあまり入らないらしく、魚影も濃く、山菜も豊富だった。私の好きなオオルリ、サンコウチョウにも会えた。近くの横枝に止まって、「月日星ホイホイ」と歌っている。パラダイス・フライ・キャッチャーという英名にふさわしいサンコウチョウのオス。しなやかな尾羽根、目の周囲の鮮やかなコバルト。本当に良い山行であった。　　（記・

［タイム］　出合（13:45）→沢終了（16:20）

天王寺裏沢（仮称）

1983年9月18日
）



天王寺沼から流れ出す小沢は、地図上でははっきりと水線がひかれているのだが、農業用水の取水や、人工的な流路の付け替えにより、現在ではその下半分は殆ど水の流れることはなくなっている。

12:55遡行開始。出だしは道路の側溝にすぎない。そしてその上は、砂防ダムと側面舗装が進められていて、ほとんど人工河川に変わろうとしている。

工事現場を過ぎて樹林帯に入った所で滝が出てきた。５m。水がほとんど流れていないので、ど真中を楽々と直登する。その上にも滝があるが、崩れてきた岩石に埋ってしまっていて、落差の程はわからない。

上に出ると、農業用水の取水口である。ここまで流れてきた水のほとんど全てを右岸の水路に流しこんでいる。左岸へももう１本人工水路があって、余分の水を下の人家と離れたところへ流し出すようになっている。

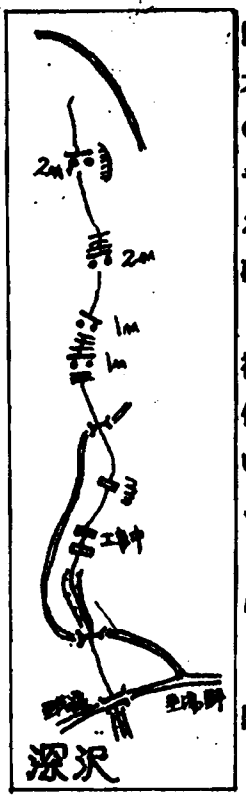
ここから天王寺沼までは細い流れが続くだけで、特にどうという所もない。右岸にはずっと踏跡もついている。　　(

〔タイム〕　出合(12:55)→天王寺沼(13:10)

深　沢

1983年9月17日

国道399号線にかかる橋の所からいったん沢に降りてみた。水はこのあたりではコンクリートで固められた人工の流路を流れ下るようになっている。この階段状に固められた人工の流路というやつは、遡ろうという者にとって、大変な障害の連続する所である。堰堤の高さは２ｍと少々あるので、左右の石垣に充分なスタンスが得られないと、とてもじゃないが越えられないのである。それでも３つほどの堰堤を越えてみたが、諦めて、沢ぞいにのびる林道をたどり、３つ目の砂防ダムを越えた所で再び沢に戻る。



10:10林道の橋をくぐる。しばらくすると、ナメが出てきた。初めから、この沢はダメだろうと思っていても、やはり何か変化あるものが出てくるのではないかと、いつもあわい期待をだいて登っているものである。この沢も、ここでナメが出てきたことで、「もしや」と勇みたったが、あとが続かなかった。

11:35小滝２ｍを直登した所で水は濁れてしまった。そこから少し登ると、農道に出たので、遡行終了とする。10:45。

(記

〔タイム〕　出合(9:50)→遡行終了(10:45)